

日本一になりたいではなく、なる！ ～大学、クラブと連覇だ～

大塚 貴之

おおつか たかゆき・23歳
大分雄城台高→帝京大

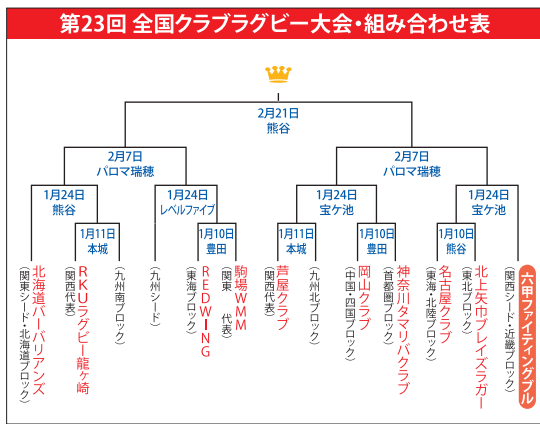
この男がプレーする姿は、間違いなく日本代表よりも、人々の胸を奮わせる。生まれながらに重度の聴覚障害を持ち、耳がほとんど聞こえない。それでも幼少からラグビーを始め、大分雄城台高では主将を務め花園まであと二歩の所まで迫り、さらに進学した帝京大学では、150人以上の強者が集まる最強集団の中で愚直に努力を積み重ね、4年生の昨季、ついにAチームのメンバーとして大学選手権にも出場。トライも決め6年連続日本一に貢献した。4月から新社会人。配属先が関西になつた。二度はトップレベルのラグビーから離れようと思つてましたが、時間が経つにつれてもう一度レベルの高いところでプレーがしたいと思ひようになりました。もちろんそこには六甲メンバーたちの暑苦しいほどの勧誘もあった。

「六甲はアットホームな雰囲気ですが、オンオフのメリハリがしっかりしている。日本一になるという目標を明確に立て、それに向けて努力をしているチームだと思ひます。ラグビーの印象を語る。山口さんは素晴らしいです。58歳になつてもなお現役なのはラグビーに対する情熱が計り知れないからだと思います。僕も年を取つてもプレーして、ラグビーをいつまでも愛したいと思います。」

練習や試合時には相手の唇を読み取る。口話で即座に判断する。障害のことを少しも感じさせないプレーに、六甲の仲間も驚く。「練習の時から唇の動きを大きくしてもらったコミュニケーションはとっています。」

ポジションは主にWTB。相手に捕まつても簡単に倒れず、体幹の強さでさらに前に出るプレーが魅力だ。

六甲と同時にラグビー聴覚障害者ラゲビの活動の中心としても活躍している。なる！なりたいたいではなく、なる！応援よろしくお願ひいたします。」



15 期待の新戦力

頼もしかアニキはFWの中心パイ！ ～日本一へやっちやるけん！～

福島 清登

ふくしま すみと・30歳
筑紫台高→九共大

博多から「ずこか」男がやつてきた。キックオフやラインアウトなどセットプレーで抜群の安定感を誇る頼もしき187cm103kgの好漢である。昨季までトップキウシュウの安川電機に所属、国体代表や九州代表の経験もある男が、今春、大阪に転勤。六甲でプレーする弟の福島勇樹のすめもあり入部した。春シーズンからほぼすべての試合に出場。どんなレベルでも手抜きをしない仕事ぶりで仲間の信頼を勝ち取っている。

「打倒パーバリアンズ！」今季のチーム目標には欠かせない男が、初めての全国大会で日本一を目指してやっちやるけん！



2年越しの日本一へチーム一丸！

普段より多大なるご支援・ご声援ありがとうございます。お陰様で無事近畿リーグを全勝で終え、全国大会の切符を勝ち取りました。昨シーズンの全国大会準決勝・北海道パーバリアンズ戦から10カ月が経ちました。同点トライ数の差でパーバリアンズが決勝に駒を進めました。

私の中では昨シーズンがまだ続いています。近畿リーグでもそうでしたが、全国大会でも簡単に勝てる試合は一つもありません。一つ一つ着実に積み上げ、日本にとって素晴らしいラグビーヤーである今年度に結果を残します。今年こそチーム一丸となり、日本一になつてシーズンを締めくくりたいと思います。

是非、会場に足をお運び頂き、応援して頂けると、選手も大変力になります。グラウンドで最高のパフォーマンスをお見せいたします。暑い、暑いご声援をよろしくお願ひいたします。



主将 谷 晋平 26歳
たに しんべい・26歳
島本高→天理大

昨年近畿リーグ王者との対戦は、休日出勤等が重なり、リザーブメンバのほとんどがFW。六甲にとって今季一番の厳しい戦いが予想された。キックオフ。早々からFWがラッシュに敵陣に入り込む。前半3分、CTB吉本のキックパスを受けた巨漢CTB寺田がゴール隅に相手弾き返して先制のトライを決める。続く6分にはベテランLO大内が相手タッチキックを猛チャージしてそのままゴールにタッチダウン。点差を広げていく。さらにCTB吉本が、ラッキーな場面もあつたが立て続けに連続トライを奪い、前半20分を前に4トライ。勝点「1」を獲得する。だが、その後がいけない。アタックが「いける」とわかつた時点で再三攻め込むもゴール前のプレーが難になつてきた。ゴール前でも



近畿リーグ第4戦
(10月25日 天理大白川グラウンド)
六甲ファイティングブル 56 - 19 奈良ムース

後半に入つてもやや空回りの状態が続く。ゴール前まで攻め込んで、球際に鋭さを見せる奈良の防御にそこを重ねることができない。それでも途中から替わつた今季初出場のFL松本がトライを決めると、SH谷も切り込んでトライ、モールでもトライと、得点を積み重ねていく。最後はベテランFL村川がねじ込んで合計10トライ、56-19でのノーサイドとなった。

その言葉通り、ゴール前のラインアウトからFWがモールをドラッグしてトライ。さらにはハーフライン付近の攻めからターンオーバー。谷主将が巧みに相手防御をすり抜け、そのまま50メートル近くを駆け抜けトライ。ゴールも決まつて14-10と逆転に成功。その後「相手の運動量が落ちた時に、もっとはラインアウトから左に展開」と付け込まなきやいけに、こちCTB前田が素晴らしいスワープからも合わせてしまった。正直、もっとトライを取れた試合だったと思ひます。(谷主将)

「結果は圧勝でしたが、満足できる内容ではなかった。外から見ていて、『ああまだ、六甲ってそんなに強くないんだ』とも感じた試合でした」と谷主将。伝統の一戦に勝利したものの、後半だけで「11」もの反則数が、勝利をあまり喜べぬものにさせたのだろう。

後半ラスト10分、足の止まつた千里馬から3トライを奪い、合計11トライ、71-10でのノーサイドとなった。

「結果は圧勝でしたが、満足できる内容ではなかった。外から見ていて、『ああまだ、六甲ってそんなに強くないんだ』とも感じた試合でした」と谷主将。伝統の一戦に勝利したものの、後半だけで「11」もの反則数が、勝利をあまり喜べぬものにさせたのだろう。

六甲にとっては最悪の立ち上がりで芦屋Dリだった。キックオフ直後のわずかFをかく20数秒。SO越村のキックをチャイルドされてそのままトライ&ゴール。に飛び込さら8分には自陣で反則からペナルティゴールを決められて、10分もSO越村が「ルーティン」通りに蹴り込み、0-10からわずか5分間で21-10と六甲のペースに持ち込んだ。

しかし、ここからなかなか得点に繋がらなくなる。ラストパスの場面でもパスが簡単なミスが続く。

「アタックが通用するとわかつたからの攻撃がよくない。プレイクタウも無理なフライングで余計な反則をしてしまっている。ハーフタイムで谷主将は不意な反則に注意を促し、よりコミュニケーションを取るよう指示を出す。

近畿リーグ第2戦
(9月26日 天理・親里球技場)
六甲ファイティングブル 71 - 10 千里馬



昨年近畿リーグ王者から10T！ 最終戦残り22年連続22回目の全国決める！ 10点差を二気にひっくり返す！ 芦屋クラブとの全勝対決に逆転勝利！ 「伝統の一戦」に快勝！ 千里馬クラブから71得点！